

弓道ながの

第61号

発行：長野県弓道連盟
会長 外蘭公毅
〒399-4117
駒ヶ根市赤穂10214-4
TEL0265(83)5206
編集：県弓連広部
印刷：株成進社印

巻頭言

絵と弓

長野県弓道連盟副会長 山浦博



大学三年生の秋、前衛美術学会員、大学卒業の六月、新宿紀伊國屋画廊企画個展、その二年後、古沢岩美、

山本文彦(洋画)、平山郁夫、加山又造(日本画)、駒井哲郎、池田満寿夫(版画)など現代日本を代表する先生方と朝日新聞社主催「現代の幻想絵画展」へ招待され出品。又、その翌年オーストリアの幻想画家ペーター・クリーチの紹介もあって、パリの画廊(ムッフ、パロンブルーズ)の二店から出品要請があり、その対応に苦慮していた時、スペイン留学中の友人から偶然にも連絡が入り、良い機会なので直接パリの画廊を訪ねたらと誘われるままに渡欧、序でにスペイン・バルセロナの美術学校

へ短期遊学をしたのは弓道と出会う二年前のことでした。その頃の私は既に教職に就いていましたが、画家として名を成したい願望と、紀伊國屋画廊、日本橋の東邦画廊、銀座のパピエ画廊などとの繋がりから寸暇を惜しんで制作に打ち込んでいました。そんな中、弓の稽古と制作活動が相互作用しあって今までに味わったことのない辛い戸惑い(迷い)を経験しました。美しい物を見ると感動を覚え、知らず識らず気持ちも昂っているものです。又、描画の最中全く同じ情態に私もなっている様です。しかし、その昂りが弓道においては射に少なからず悪い影響を及ぼしていると気付かされたのは的前に立って間も無くのことでした。逆に、道場稽古の後、直ぐアトリエに戻り作品に向かっても気分が落ち着き過ぎて、却って筆が進みませんでした。こ

のギャップが永い間私の頭痛の種でした。

絵を描くにはモチーフを目で良く観察し、それを脳へ伝え、脳はこの情報を選別し手に指令を出すことで、キャンパス上にそれを表現します。そしてもっと上手になりたいと思うならまずやることは、目を鍛え、頭を整理し、手を意のままに動かせる様、身体の中の情報の流れをスムーズにすることで、弓も前記した絵画の仕組みと全く同じだと考えます。多くの人の射姿を目で良く見る。これは「見取り稽古」です。次に脳は目から伝えられた多くの情報を整理し(伝わったすべてを表現しようとする)とパニック状態に陥る(五体に伝達、それを道場で演じます。目から伝わった情報を脳で取捨選択して考えることが「工夫稽古」へと繋がり、また、その積み重ねがその人の射の個性を構築すると考えます。そしてこの情報の選別こそが個性です。個性とは人が必ず持っているものですが、残念なことには自分ではコントロール不能です。目からの膨大な情報

を脳で整理選別する行為を繰り返してそれに慣れてくると、今度は逆に目に脳から指示を出し余計なものは省ける様になるのです。絵には上手になる為の習得可能なくつかの能力があり訓練もできます。上手な人は初めからうまい、その人と自分は違うと思うのは思考停止であり上達の妨げにもなりません。但し、ここで大切なのは、正しく純粹な神経の働きです。頭では、理解しているが思ったように手が動かない、これは体内のどこかが接続不良か、錆付いているかということ。正しく鍛えれば正常に動くようになりま。無頓着なまま間違った方法で矢数をかけ、射に癖が付かないよう充分に留意しながら今後も稽古を続けていきたいと願っています。



平成二十九年 各事業部より

新年度に向けて

総務部長 湯澤 秀雄



ご心配いただきながら一年経ちましたが、正直に言いますと長野県内はもちろん北信越の弓仲間ができてたいへん楽しく過ごせることができました。その間、北信越国体では飯伊支部の皆様をはじめとして大勢の方々にご協力いただき、無事開催することができました。深く感謝申し上げます。

今年度は六月に長野運動公園弓道場で錬士臨時中央審査が開催されます。北陸新幹線が金沢まで延伸したこともあり受審者が相当数になると予想しています。多くの合格者が出るよう親切的な対応を心がけたいと思います。十月には松本市弓道場で範士研修会が開かれます。日本全国から範士の先生方が集まられるのでたいへん楽しみですが、残念なことには非公開で一般の会員には見学していただけません。長野県の印象が少しでも良くなるようにおもてなしをしたいと考えています。また、

全日本弓道連盟が進めている公認認定資格制度には弓道指導員資格が必要となります。六月十一日には上級者の伝達講習会がありますので、五段取得から四年または錬士取得から四年の方は必ず受講していただきたいと思います。

昨年の経験から、様々な通知、手引等がメールで送られてきます。それを印刷して郵送することはとてもできないことです。役員、全国や北信越の講習会、競技会に参加される皆さんはスマートフォンではなくパソコンのメールアドレスを総務部にご連絡いただき資料を転送させていただきます。と考えています。

会務に忙殺されて自分の弓が引けないようではつまらないと思います。弓を楽しみながら精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。

平成二十九年度

指導部の取組み

指導部長 宮坂 博之



空の色にも、風の色にも春を思わせる季節となりました。そして新年度が始まります。指導部も二年間、会員皆様にかたご不便をお掛け致しましたが、来年度も同部員で、反省しながら進めて参ります。

また、どうぞよろしくお願いいたします。さて、二十八年度は、指導方針が全弓連より発表されて、それに基づいての講習が行われましたが、まだやり残したことも有り、引き続きそれに沿って講習会を行って参ります。また、全弓連の取組みとして、「伝達講習会」の意味合いが大きく変わって参ります。

「公認資格認定制度」に伴い、伝達講習会も「公認資格認定講習会」を含む講習会となります。審査委員・審判委員・講師となられる会員は、公認スポーツ弓道指導者の資格と共に、この資格が必要となりますので、二十九年度からそれに向けて、指導部も備えて参りたいと考えております。

更に、会員の皆様にとって、講習会の何が必要なのか、検討して参りましたが、二十九年度は、少し手薄だった中級者(三段・参段・四段)の講習を県下四地区にて、指導部として行いたいと思っております。

「一つの枠の中の稽古には進歩がない。箱庭式の稽古にならぬよう、枠を破り乗り越えての工夫が必要である。」と弓道誌にあります。講習会は何も新しいことを行っている訳ではありません。教本・副読本に沿ってそれを繰り返し、繰り返し行っています。「これで良し」とせず、自分の枠を越え講習に参加して下さい。

難うございました。二十九、三十年度、競技部長として長野県弓道連盟の為に微力ではありますが尽力させていただきます。

二期目をむかえて

競技部長 中野 栄治



本年度は役員改選に当たり三月六日の評議員会において二期目の常任理事として御承認をいただき有り

難うございました。二十九、三十年度、競技部長として長野県弓道連盟の為に微力ではありますが尽力させていただきます。

競技部員も一名入れ替わり若い部員でのスタートとなりました。二十八年より競技規則も一部変更された部分もあり昨年は四苦八苦の一年でした。もう一度勉強し直して選手の方々に不安を与えないように頑張りたいと思っております。十年後、ながの国体の話も聞こえてきています。運営委員も国体に対応できる人材育成をしなればと思いを新たにしております。

昨年を振り返ってみますと、北信越国体と北信越選手権大会と大きな大会があり、担当は総務ではありましたが競技部も応援の形で準備等忙しい一年でした。北信越国体にあたり県営飯田弓道場ではリハールを兼ねて県近の選手権大会、県遠の選手権大会を行いました。会場の設営、施設の状態、運営委員の動きなど北信越国体を想定し行いました。

飯伊支部の小松支部長先生はじめ多

くの会員のご協力をいただき感謝申し上げます。お陰様で大会もトラブルも無く無事に終了する事が出来有り難うございました。

特に好評だったのが大会途中経過を県連ホームページにリアルタイムに載せた事でした。観戦の方や県内外の方が県連ホームページにアクセスして結果を見られるようになりました。手塚信一郎、山岸稔員コンビが考え実行しました。もう少し前にPRをすれば県内の多くの方が大会を楽しめたかもしれません。この取り組みはすばらしかったと思います。今後、長野県から発信されたような事が日弓連のホームページで全国大会を観戦出来ればと期待しております。

これから二年間、県内各地区の会員の方々にはお世話になります。ご選手としても参加していただくようお願い致します。



平成二十九年 度へ
審査部長 押金 孝

ようやく寒さも和らぎ、弓道をするのの良いシーズンとなりました。いよいよ、新年度がスタートです。その前に平成二十八年度の審査部事業を振り返りますと、十五回の審査会が無事故で無事終わったことがあげられ

ます。

無事故は当然の事と思う反面、弓矢を扱う者にとって最も重要なことだと思っております。

平成二十八年度は、第五十七号「弓道なごの」に書きましたように、初めて審査部で連合審査会の準備、運営などに携わりました。県外の先生方や多くの受審者の方々をお迎えし、無事終えることができました。

平成二十八年度は一名審査部員の増員、平成二十九年度は、一名の交代もあり、反省点もあることから、三月には審査部員の勉強会を開催し、平成二十九年への準備をしたところです。昨年度の審査部事業にご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

さて、参四段審査会は、春季秋季に夏季を加え年三回開催地は四地区輪番制で実施してきました。昨年、第八回北信越連合審査会十月二日、九回秋季参四段審査会十月十六日と、二週間で参四段が二回あること、受審者数などを考慮し、今年度は連合審査会のある時期の参四段審査会は廃止し、連合審査会での受審をお願いしたいと計画いたしました。

今年度は、六月四日(飯山)十月一日(飯田)に於いて北信越連合審査会が実施されますので、春と秋の参四段審査会を実施しません。連合審査に奮って受審願います。

夏季参四段審査会は夏期参四段審査会と改名いたしました(定期的なものは「季」よりも「期」が適切との考えから)。夏期参四段審査会は、松本市宮弓道

場にて実施いたします。受審者の多い地区をとの考えから輪番制をやめました。松本支部の皆さまには、大変と思えますがよろしく願いました。

長野県の土地柄面積が広く、学生を含め弓道人口が多いこともあり、今年度は審査会が二回減りますが、それでも十三回審査会が各地で開催されます。

弓道にはいろいろな楽しみ方があると思います。友ができる、競技に目標を見出す、上手になりたい、老後の楽しみなど、その中に十三回の審査会の中で一回でも昇段審査に挑戦するということを加えていただき受審していただけたら嬉しいです。

最後になりましたが、今年度も受審者の皆様が審査を安全に且つ集中できる環境を準備したいと審査部員一同考えています。関係各位には、昨年度同様お世話になります。よろしくお願いいたします。



昨年の反省と今年
強化部長 永藤 聡

役員改選により新しい役員が決定し、引き続き強化部長を仰せつかりました。精一杯努力させていただきます。昨年、成年男子の近似的以外の種目は、すべて予選落ちという結果で反省

の多い国体でした。ただ、唯一予選通過の近似的成年男子が、二連覇という結果を出してくれました。この成績に隠れて、強化部のふがいなさの追及はあまりされずに済みました。成年男子の選手監督、ありがとうございました。

しかし、成年男子に限らず、選手は精一杯やってくれました。その中で、空回りした部分や不運が重なり、今回の結果になったと思います。それを予見して、うまく歯車がかみ合うように、個人の力とチームをまとめるのが強化部です。また、力の無さを痛感した大会でした。ただ本国体では、ほかの県の監督・コーチよりましかな、と思うことも何度かありました。いやいや、下を見てはいけません。もつと選手が自信を持って、自分の矢がすべて上手いくことに、全く疑いを待たずに、本番の場に立つてもらえるよう努力します。

本年は愛媛国体ですが、水泳競技などとともに弓道競技も会期前開催に組み込まれたため、例年より約一ヶ月早い開催となります。強化事業の回数は例年並みで行いますので、九月までは毎週、強化練習強化合宿となります。選手、強化部の皆さんには、健康に留意のうえ、目的を持ってご参加ください。

また、本年も県内各道場を使用させていただきます。その際には弓士の皆様にはご不便をおかけしますが、マナーには気を配りますので、ご協力をお願い申し上げます。

とりとめも無く書かせていただきましたが、十年後には長野県に二度目の本国体が来る様相です。それに向けての事業計画も始まりましたが、まずは目の前の強化をひとつひとつ着実に実行し、成果を上げていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

ジュニア部活動について

ジュニア部長 神津 明男



平成二十八年度のジュニア部の事業活動も会員の皆さまのご支援をいただき、無事終了することができました。心より御礼申し上げます。

昨年度も多くの中高生が活躍する姿が見られました。全国高校選抜大会では岡谷工業高校の小口選手が男子個人六位に入賞されました。また、六月の北信越高校大会では男子個人で飯田風越高校の松尾選手が優勝し、団体でも三位以内で男女で三校が入りました。十一月の北信越高校新人大会では女子団体で長野西高校が優勝、他に団体で一校が入賞しました。全国中学生大会では、文化学園長野中学が初出場ながら男子団体決勝トーナメントへ進出しました。国体関係では少年男子が北信越国体で優勝し、本国体出場を果たしました。その他、県内各地で多く

の中高校生が日々の弓道活動に打ち込んでおり、選手はじめ指導者の皆様のご努力にたいへん感謝しております。毎年六月末には中学生にとって唯一の県大会である全国中学生弓道大会長野県予選会が塩尻市弓道場で開かれております。県大会ではありませんが出場者があまり多くないのが現状です。しかし、各地の弓道教室で受講している中学生はまだまだいると聞いております。初心者の方は参加することに意義があると思います。的中にこだわらず多くの中学生が参加して、大会を楽しんでほしいと思っております。

高校生においては、主に学校のクラブ活動で先生方にお世話になりながら普及がなされております。今後とも指導をよろしくお願いいたします。ジュニア部では本年度も未来を託す若者を援助する活動を進めたいと思っておりますので、皆様のご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

**本年度も宜しく
お願い致します**

広報部長 荒川 保



昨年度は広報部の事業に付きまして大変ご協力を頂きありがとうございました。特に広報「弓道なごの」に付きましては、お忙しい中から急なお

願いにもかかわらず大勢の方に原稿の執筆や寄稿等ご協力頂き感謝しております。また、この広報紙を手にとっていただき、目を通して頂いていることにも大変感謝しております。

一年に四回の発行ですが、十ページを埋めることは結構大変です。巻頭言は毎回会長や副会長にお願いしております。長年の弓道経験からの随筆は大変有意義なものになっていくのではないのでしょうか。

県弓連の講習会も内容等細かく報告させていただいております。多くの方が講習会に参加され、日頃の稽古に活かして頂きたいと思っております。

教士、七段以上の審査合格者には報告を兼ね執筆をお願いしております。論文の提出期限があり大変だとは思いますが、これからの県弓連を担っていく方々です。後輩の励みにもなりますので宜しくお願い致します。また、過去に県弓連の為に尽力して頂きました先生方の思い出や指導などの記憶も残しておこうとお弟子さんたちに執筆をお願いして参りました。これは範士の先生にとどまらず、各地区で熱心にご指導いただいた先生を紹介できればと思っております。ぜひ思い出の写真添えてご寄稿頂きたいと思えます。

ホームページは迅速な対応と情報量が大切です。大会要領と結果、講習会や教室の案内、また日弓連や県弓連からのお知らせなど活用いただければ幸いです。昨年飯田で行われた北信越国体では、リアルタイムでの結果更新

が出来、大変好評でした。写真や動画のアップも可能なのでこれから利用方法を検討していきたいと思えます。

いづれにしても広報部員の情報だけでは足りないのが現状です。どうぞ皆様の情報をもとに紙面やホームページを充実させていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願い致します。

監査会がありました

常任理事会計 高仲 成人



「全ての帳簿帳票の整理と整合が完璧になされ、しかも美しくまとめられていて感動した。会計とはこ

ういうものかと再認識させられた。」平成二十八年年度の長野県弓道連盟会計監査会が、二月十九日に行われ、監事の植松、山田両先生から身に余るお言葉を頂きました。終了の挨拶で会長が「お褒めの言葉をいただいた。」と喜ばれたこともあり、私たち事務局担当者にとっては一年間の疲れが癒されるひと時でした。

本連盟会計を担当する高仲です。年間予算二千五百万円の会計は重く、緊張感漂う毎日です。会長のアイデアで、弓道愛好者である私の妻も事務局員に加えられ、日々発生する勘定の管理を

ダブルチェック体制で処理して来られたことは大変な助けになりました。

単純な資金の出入り以外に、未計上の支払い済み費用など、見逃すと帳簿が合わなくなる保留中の事項が同時進行で発生します。この二年間で、これらをどのように把握しておくかという手順を、自分たち独自で決めて実行することができました。

当たり前のことですが、日々締める会計の残額が資金と常に合致しており、いつでも説明できる状態を維持できたのが何よりでした。

前任者たちはよく一人で、しかも本業勤務後のわずかな時間にやって来られたものだと感心します。

会計事務は素人ですが、「誰が見ても資金の出入りの道筋がたどれること」を念頭に一日一日正確な会計管理を行って参ります。

評議員会報告

平成二十九年二月二十六日(日)松本市燦祥館に於いて評議員会が行われました。

会長より、全国的にも長野県でも弓士の高齢化が年々進んでおり、若い人材の育成が急務である。若い方の積極的な受審を促して頂くなど、各支部の皆様にはご協力をお願いしたい等の挨拶がありました。



▲会計監査風景

挨拶がありました。

長野県弓道連盟の二十九年度事業計画は、一月八日事業部会で各事業計画が立案され、一月二十九日理事会、二月十九日会計監査を経て、今回の評議員会にて承認されました。

これより二十九年度のスタートに向けて動き出しました。

私と弓道

上小支部 錬士五段 鷹野 良信

私は弓道を始めて今年で三十年になります。弓道教室に入って初めて弓を握りました。父の弟で東京の叔父さんが弓道をしていて、あきっぱく何をやっても長続きしない私を見て弓をすすめてくれたのがきっかけです。こんな理由で始めた弓道ですが、本当に精神を統一するのに役立ちました。

ところがいざ審査に臨むと、中りのみにこだわりすぎて、自分の型を造れず何年も何年も昇段には無縁の日々でした。これではいけないと、初心にかえって精神統一を図らねばこのままで終わってしまうと思い一層精進し、努力を重ね今の段位にまでなりました。そしてやっとの事で

錬士の称号をいただきました。

この年から、東信地区の教、錬士会へ参加させてもらいました。春季の講習会、伝達講習会と多くの講習会に参加させてもらい、色々御指導をいただきました。又他地区の射会にも参加させてもらい、多くの弓友が出来て交流が生まれました。三段以下の審査又弓道教室、上小支部の庶務を担当させてもらったりと良い経験をさせてもらいました。平成十年十一月には、ねりんピック名古屋大会に県代表として参加させてもらい「優秀賞」もいただくことができました。これも私の「弓人生」の中で忘れられない大きな励みになった一つでした。

先般上田市合併十周年記念事業として「上田城流鎗馬」に参加いたしました。これも県弓連の広報部東信地区担当としての参加でした。



尚県広報部については「平野先生」「征矢先生」「杉田先生」「荒川先生」の四代にわたり大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げますと同時に今後ともよろしくご指導の程をお願い申し上げます。



教士の称号を拝受して

飯伊支部 教士六段 平澤 敏弘



昨年十一月五日の東京定期中央審査にて教士の称号を拝受させていただきました。三十代前半での教士昇格を目標にこれまで努力して参りましたが、ギリギリではありましたが目標を達成する事が出来ました。私がこまごま成長することが出来たのは多くの先生方に出会いご指導頂いたお蔭であり、大変感謝しております。

私が弓道に出会ったのは、今から約二十年前に飯田工業高校(現在の飯田OIDE長姫高校)に入学した時です。当時は漠然と何か体育会系の部活動に入りたいと思いついた。顧問の先生は中山光康先生でした。それ程強い

高校ではありませんでしたが、中山先生には頻りに近隣の弓道大会へ連れて行っていただいたり、愛知県まで練習試合に行ったり大変熱心にご指導いただきました。当時の飯田工業高校では、外部講師として篠田知博先生に指導をして頂いておりましたが、指導の中で私の離れの瞬間に「離さないの的に中った」という言葉を掛けていただきました。当時は何の事だか良く理解できませんでしたが、それは離れたのではなく自然に離れて中ったと最高の褒め言葉を頂いたのだと数年経ってから理解できました。高校時代の成績は県大会出場まででしたが、弓道の面白さを学びました。

高校卒業後は信州大学へ進学しました。特に部活動に入る予定はありませんでしたが、たまたま勧誘され道場へ見学に行きましたら、再び弓道の魅力に惹かれ大学でも弓道をやることになりました。信大では小林克先生にご指導いただきました。小林先生は、医師という忙しい職業の中、毎日のように大学の道場へ指導に来ていただき、学生と共に自らも弓を引き常に修練を怠

らず弓の道を探究されており、的中が全ての学生弓道とは違う弓道の本質を学びました。信大は毎年全国大会へ出場する程の強豪でしたが、正射必中を基本に学生全員が常に日本一を目標に切磋琢磨しておりました。私も負けじと努力を重ね、二年生以降は全国大会など常に最前線で活躍できるまでになりました。この信大弓道部での経験が現在の私の弓道の基礎となっております。

就職して地元へ戻ってからは藤澤敏子先生に指導を受け現在もご指導を頂いております。藤澤先生からは弓道の指導は勿論ですが、それ以上の人間的な事や社会の常識など大変多くの事を学ばせて頂いております。また山川茂樹先生、土川俊市先生、外薮公毅先生からは今まで自分の思い込みや曖昧で間違っていた射法射技や体配の基本を正していただき、本当の正しい弓道をご指導頂きました。

私の弓道人生の中で欠かせないのが、国体への挑戦と強化



部の先生方との出会いです。北嶋晋先生、新津一夫先生、永藤聡先生の強化部長をはじめ、成年男子の監督としてご指導頂いております大口晴男先生には弓道の奥深さや面白さ、勝つことの喜びを学びました。

ここでは書ききれない程多くの先生方や弓友に出会い支えられてここまで成長することが出来ました。本当にありがとうございます。

今回の教士昇格も私の長い弓道人生の中では通過点であり、これに満足せず今後も自分の弓道を探究し、更に上を目指して挑戦し続けたいと思います。



祝 教士昇格

上那伊支部 教士六段 征矢 憲



この度の『教士』昇格に際し、多くの先生方、仲間の皆様方から祝意と激励の言葉をお寄せいただき、恐縮至極に存じます。誠に有難うございました。衷心より御礼申し上げます。

大学で初めて弓を握ってから五十年、『錬士』昇格から三十二年、六段昇段から二十六年が経ちました。途中、勤めの関係で活動休止期間が五年、『教士』の審査から全く遠ざかった時期が十年ありましたが、気がつけば長い歳月が流れていました。「昭和錬士」と揶揄され、自嘲しながらも、よくぞここまで辿り着いたものだ感慨入りのものがあります。大学時代に弓の手ほどきをして頂いた先輩から、半世紀にも及んだ私の弓道人生を論語から『一以之貫』の語を採って評して頂き、畏れ多い事と恐縮した次第です。

大学卒業後、高校教員として弓道部顧問となり、昭和五十三年、先輩の先生方と長野県教職員弓道連盟を立ち



上げ、そこが私の主な活動の場となりました。山内成豊先生を顧問に斎藤節朗先生、櫻井耕三先生、蟻川匡史先生には大変お世話になりました。毎年開催される全日本教職員弓道選手権大会に仲間と参加し、弓道を通して充実した教員生活を送る事ができました。長野高校に在職した九年間は善光寺弓道会に所属し、林亮天先生はじめ多士済々・錚々たる先生方のご指導を受けて昭和五十九年に『錬士』に昇格できた事も、嬉しくも懐かしい思い出となっております。

『教士』への再挑戦は退職後の平成

二十年からで、以来、五度(平成七年に初通過の経験があり、併せて合計六度)、一次審査を通過するも中々結果が得られず、不甲斐なさを痛感しておりました。二十三年から小松哲先生に誘われてビデオ機材を導入した研修会に参加、映像を確認しながら共に学ぶという練習を繰り返して体配や射の改善を図り、審査に対する自信が持てるようになりました。研修会では小松先生の教士昇格後も新しい仲間を加えて続けられ、その活動が時には挫けそうになる私の弱い心を支え、気力を奮い立たせてくれる大きな力となりました。

『望みを捨てぬ者だけに道は開ける』とは、大河ドラマ『真田丸』での幸村の言葉です。その言葉通り、望みを捨てずに『教士』という道筋が開けたと実感しています。『道を極むは態度にあり、技を磨くは鍛錬にあり』とは、かつて齋藤節朗先生に繰り返し説諭された言葉です。これからは謙虚に己を磨き、『五輪の書』にある『千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を錬とす』を肝に銘じ、修練に励んで参りたいと思っております。今後ともよろしくご指導の程、お願い申し上げます。

弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場	
近的道場	18人立1ヶ所 (床暖房完備)
	12人立2ヶ所
遠的道場	1ヶ所

帝産ロツヂ
 〒384-1305
 長野県南佐久郡南牧村野辺山1003
 HP: <http://www.teisanlodge.com/>
 ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861



弓と共に

飯伊支部 教士六段 下平 春夫



心身を鍛えるからと誘われ行い始めた今年の寒稽古は、半袖の道衣で挑んでみました。二月

の名古屋審査会場は、肌を刺す寒風が吹き込むため体を慣らしたと思ったからです。その思いが天に届いたのでしょうか、当日のガイシ弓道場は、穏やかな立春の一日となり落ち着いて審査に臨むことが出来ました。

この日の一週間前は、当支部で毎年開催されています射法射技研修会に、土川先生をお招きし徹底したご指導をして頂きました。「大三で手の内を整えるから、妻手は引かない」の教えを、その一か月前は南信錬教士会で外菌先生より「姿勢と体配」を直して頂き宮坂先生からは「引分けは手の内が中押しし」と教えられ、林先生は「正しい歩き方」を指導して下さいました。又週一度、藤澤先生を中心に弓仲間が集い、和服で稽古に勤しみ特に審査前は多人数が揃って行射出来るように便宜を図って頂いています。

審査前日には、日頃より見守って下さる篠田先生から「会で伸びて伸びて残心まで伸びきる」との助言を頂きました。どうせ中らないのだから、伸びに徹しようと徒手練習で審査に臨んだ次第です。

このように講習会、研修会での教示を頂いたことが良い結果に繋がりと大勢の仲間との稽古が生かされ、お陰さまで二次に進むことが出来ました。二人の一つで大前になり、控えては位取りや二人の間隔を再度見直したりして穏やかに出番を待つことが出来ました。

広い射場、審査委員の先生方が見ている前を歩み進んでいる時、二人だけのために何と贅沢な時間と空間を使うのだから、と余計な事が浮かび、「これが審査だ、ここまで来られたのだから気を張れ」と自分を鼓舞してしました。と同時に「審査は見た目がきれいであれ」が浮かび、背筋を伸ばし胸を張り無駄な動きをせぬように、行った心算で射場を後にしました。今思い出しても気持ちにゆとりがあったことが分かります。

結果発表を待つホールには、明日受審される顔見知りの先生方が、応援して下さり和やかな気持ちにさせて頂きました。

合格の喜びは、発表の時だけで論文の課題を渡された瞬間現実に戻されてしまいました。提出期限が二週間内でしたから。

ご指導頂いた先生方をはじめ稽古を共にして下さった方々に、嬉しい報告が出来ました。一安心して帰路に就いた次第です。

後日伝え聞くと、体配に難点が、多くの受審者に見られたとのこと。自分の体配を反省して礼に即した体配を更に修練し射品射格の向上に繋がる稽古をしなければと思いました。

これからは、教えて頂くばかりでなく次世代に弓道の良さ、弓道の精神を伝える側に立ちます。当支部でも五月から弓道教室が始まりますので担当される先生方と指導力を磨き「やって見せる」ことが出来るように、そして「弓道をやって良かった」と思ってもらえるよう精進に努めたいと思います。

山川先生がご存命の折、伊那の弓士の皆さんと射礼研修に参加させて頂きました。先生には一人一人の技量に合わせて常に情熱を持ち時に叱咤されご指導頂きました。

た。その熱意を弓道を志す教室の生徒さん方に注ぎ込めるよう研鑽に努めたいと思います。

今、県弓連の競技部のお手伝いをさせて頂いております。初めの頃は慣れるまで担当されてしまった重田先生、奥山先生には、大変ご迷惑をお掛けしてしまいました。昨年はミニ団体で平野先生、中野先生の下、貴重な体験をさせて頂くことが出来ました。審査での体験、大会の選手や役員での経験が積み上げられて、自信となりその人なりの風格、人格が表れて参ります。「弓道を通じて身に付いた教えが、人間形成の人助けとなる」の教えに向かいこれからも弓と共に歩み続けて行きたいと思っております。

皆様方に支えられて、ここまで来られた事に深く感謝申し上げます。今後ともご指導賜りますようお願い致します。



寄稿

祖父 亀岡武 範士八段

南佐久支部 錬士六段 亀岡 英司

この寄稿依頼を受けてから、何を書けばいいのかずっと悩んでおりました。祖父はここ長野の野辺山におり、私は生まれも育ちも東京で全く接点が無かったからです。そして私が東京の高校で弓を始めたころには祖父はすでに他界しており、意外に思われるかもしれませんが、私が祖父から弓の事を教わることは一切なかったのです。子供のころ避暑で夏に訪れた時の印象といえば、でかい声と酒、相撲好き、虫が苦手ということくらいでしょう。そこで今回は、私の恩師でもあり祖父のお弟子さんでもあった故日暮千曲先生、教わった方々や父から聞いた話などをもとにお伝えしたいと思います。

祖父は明治三十九年に東京で生まれました。今でいうところの一部上場企業のような大手の化粧品問屋の一家だったようです。次男でしたので会社の経営のことよりも、いわゆる芸事や飛行機の操縦まで。そして弓道も。九歳の時には本多流に入門し二代目宗家の利時先生と運命的な出会いを遂げました。恵まれた環境の中でめきめき

と実力を伸ばし、宗家とともに指導者として学生弓道の普及に奔走しました。宗家は東京を離れられなかったこともあり、祖父は主に地方の高校や大学を指導に行っていたようです。師範旧制松江高校や早稲田実業など、関わった翌年には全国優勝してしまうほどの指導力がありました。



大きな転機は第二次世界大戦。大学助教などを経て当時は文部省体育局に勤務しており、かつ飛行機の操縦資格を所持していましたので、戦闘機の操縦指導を命ぜられ赴任したのがこの野辺山です(実は今でも帝産ロッヂの前の林には兵舎の基礎の名残があります)。いわゆる単身赴任で野辺山に仮住まいをしていたわけですが、やがて戦争が終わり、東京に帰るかこの地に残るか、選択することができたようです。そこで祖父は経験を生かして弓道の合宿所を始めることにしました。家族も呼び寄せての永住を決めました。帝産ロッヂの前身である「懐風荘」のスタートです。

そこからはほぼ弓一色でしたが、自身が表に出ていくようになったのは五十歳を超えてからのようです。昭和三十一年の全日本遠的選手権で優勝、翌年準優勝など。範士の称号を受けた時にはすでに最後の病床だったのも少し残念です。当時の本多流の師範ですら30kg以上の強弓を引いていたと思われ、弓を引かない父ですら、若いころの祖父のような弦音はほかで聞いたことがないと言っています。そして書くに欠かせないのが豪快な人柄、佐久中込の飲み屋街すべてのネオンが消灯するまでエンドレス、お弟子さんがたには相当なご迷惑をおかけし



たでありましょう。それでも見捨てられなかったということは、相当なカリスマ性があった……のでしょうか。最後になりますが、改装や建て直しの重ね、昭和五十八年に懐風荘は現在の帝産ロッヂになりました。今でも時々、懐風荘の時に合宿に来た、亀岡武先生に教わったと訪ねてくれる方がおられます。本当にありがたいことです。孫は射手としては祖父に追いつけるはずありませんが、その姿を想像しながら、この地で頑張りたいと思っております。

公認資格認定制度について

公益財団法人 全日本弓道連盟(以下「全弓連」という)は平成25年4月4日開催の臨時評議員会において承認された「改革大綱」によって、基本的事業(昇段審査・各種講習会・各種競技大会)を公平・公正に運営するため、審査会、指導講習会・研修会、競技会を、公認資格を有する委員により正しい運営が行なえるよう、制度化することにしました。

なお、制定した規程類は平成28年6月2日第1回理事会において承認決定され、同年6月23日開催の定時評議員会に提示しております。

この制度の名称を「審査委員・審判委員・講師 公認資格認定制度」と称し、要点は以下のとおりです。

《要点》

- ・公認資格の区分は中央委員と地方委員の二区分とする。
- ・全弓連の公認資格は日本体育協会の認定する「公認スポーツ弓道指導者」等とリンク(連結)することとした。
- ・資格の保有期間は有効期限付きとして更新出来ることとした。
- ・資格の認定機関は、中央委員は全弓連とし、地方委員は各地連とする。
- ・認定方法は「公認資格認定講習会」とし、各種講習会・研修会の日程内に組み込み進める。
- ・日本体育協会の資格(指導員・上級指導員・コーチ)は日本体育協会が認定する。
- ・公認資格保有者の管理は別に定める「名簿」による。
- ・制度の施行

施行の周知と準備・体制整備期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

施行日 平成30年4月1日

〈その他〉

平成30年度の各種事業で公認資格が必要な部署の要員は、この制度により「名簿」に登録された認定委員が行うこととする。

上記の要点を別紙の「審査委員・審判委員・講師公認資格認定規程の概要」に示す。

審査委員・審判委員・講師公認資格認定規程の概要

資料 N0.1
(規程修正対応)

委員区分	中央委員資格			地方委員資格		
	審査委員	審判委員	講師	審査委員	審判委員	講師
担当範囲	全ての審貴会	全ての競技会	全ての講習会	連合、地方審査会 (例外有り:注1)	連合会、地連大会 (例外有り:注2)	連合会、地連講習会 (例外有り:注3)
対象者	教士八段以上で 日体協公認弓道 指導者資格保有者	教士八段以上で 日体協公認弓道 指導者資格保有者	教士八段以上で 日体協公認弓道 指導者資格保有者	称号受有者で 日体協公認弓道 指導者資格保有者	五段以上で 日体協公認弓道 指導者資格保有者	称号受有者で 日体協公認弓道 指導者資格保有者
年齢	原則満80歳まで			年齢制限なし		
全弓連監事の 兼職禁止	投票権のある 審査委員不可	採点・投票権のある 審判委員不可	役職による制限なし	役職による制限なし		
資格認定講習会 資格更新講習会	主任講師研修会、講師研修会を充てる			地連主管委員認定講習会、 地区指導者講習会、指導者育成講習会、伝達講習会		
講習項目 試験項目	審査委員		①審査関係規程等 ②公平・公正な審査能力			
	審判委員		①競技関係規則等 ②公平・公正な審判能力			
	講師		①関係規程・規則等 ②指有力			
	共通内容 : ①救急救命処置及び安全・事故防止 ②法令順守の認識					
資格有効期間 及び更新	有効期間1年			有効期間3年		
名簿の 登録・管理	全弓連			地連		

(注1)ただし、会長から委嘱があるときは、五段以下の審査を行う中央審査会の審査委員を担当できる。

(注2)ただし、会長から委嘱があるときは、国民体育大会、全日本勤労者弓道選手権大会等、全弓連主催大会の審判委員を担当できる。

(注3)ただし、会長から委嘱があるときは、全弓連主催中央講習会の補助講師を担当できる。

弓仲間紹介

茅野市弓道会

諏訪支部 鶴見 祐一

私は、茅野市弓道協会に入ってから八年が経ちました。この文を書かせて頂くに当たり、「この年月は、瞬く間に過ぎたな」と思う一方、弓道を通して知り合うことが出来た人々に、支えて頂いた年月だと思ふ次第です。

初心者弓道教室を経て、弓道協会に入会したのですが、茅野市に来る八年前まで、当時住んでいた山梨県で、三年程、弓を引かせてもらってはいましたが、その間、全く弓道に関わっていませんでしたので、初心に戻る、という思いから弓道教室で勉強をさせて頂きました。その教室は、弓道協会史上、稀に見る大人数の参加がありました。明らかにキャパシティを超えた中で、教室の運営に加え、雨天での教室が



多かったものですから、矢道に落ちた矢の羽を乾かすドライヤーの音があつたりと、当時の先生方は、大変ご苦労されたことと思います。翌年以降も教室は続き、教室終了後に入会された方、或いは、弓道経験があり、引越に伴い入会された方がいる一方、仕事等の事情で、協会を離れざるを得なくなった方もいたわけですが、審査で、又は射会などで再会する機会がありますと、その元氣な姿を拝見出来るだけで、「弓道を続けていて良かった」と思うわけです。

折しも、この原稿の依頼を受けた一月下旬は、十九年振りに日本出身の横綱が誕生した時でした。報道陣の取材の中で、横綱が口にしていたのは、周りの人への感謝の気持ちでした。私は、どんな弓道人になりたいのか、そのビジョンは曖昧ですが、武道をする者として、その態度を見習い、今日の自分が居るのは、誰のお陰なのか、ということをお忘れず、今後の弓道人生を歩んでいこうと思ひます。

大会結果

第51回県下弓道飯島大会

○平成28年11月13日(日)
飯島町弓道場
参加人数…一般36名、中学生4名、高校生128名、計168名

個人の部(8射)

- ▲中学
 - 1位 小林 征史(飯島陣屋Jr)
 - 2位 松崎 侃定(飯島陣屋Jr)
 - 3位 宮先 一佐(飯島陣屋Jr)
 - 4位 遠藤 快莉(飯島陣屋Jr)
- ▲高校
 - 1位 田畑 桂大(駒工A)
 - 2位 高坂 彩水(岡谷)
 - 3位 中村 隼人(長工A)
 - 4位 代田 結万(飯田B)
 - 5位 原 拓也(飯田A)
- ▲一般
 - 1位 増澤 駿(OB)
 - 2位 荒井 清(飯田)
 - 3位 中村 健二(飯田)
 - 4位 生田 憲克(混成E)
 - 5位 関 正幸(チーム松本)

団体の部

- 1位 駒工A(竹村大、菅部佳寿斗、田畑桂大)
- 2位 伊那西A(北澤侑佳、三澤秋穂、原桜)
- 3位 伊那西B(永嶺有紀、春日桃桜、高木麻由佳)

第6回北信越高等学校弓道新人大会

○平成28年11月19日(土)

新潟市新潟地域学園弓道場

参加人数…高校182名

団体の部(予選24射 決勝トーナメント12射)

- ▲女子
 - 1位 長野西(中野怜美、小林陽南子、山田佳苗、宮下優衣)
 - 2位 飯田(入香江、倉園梨花、代田結万、萩原まなみ)

第72回国民体育大会弓道競技 長野県成年男女一次選考会

○平成28年11月27日(日)

塩尻市宮弓道場

- 成年男子通過選手 12名
 - 藤森千友貴(上小)
 - 黒岩 宥人(上小)
 - 依田 優太(小諸)
 - 小田切祐典(小諸)



- 清水 北登(佐久)
- 林 貴徳(木曾)
- 岩原 祐貴(諏訪)
- 飯野 勇希(諏訪)
- 市川 隆光(諏訪)
- 蟹澤 史弥(上伊那)
- 平澤 敏弘(飯伊)
- 岩村 拓生(飯伊)
- 成年女子 通過選手15名
- 藤澤 敏恵(長野)
- 宮澤久美子(長野)
- 竹花 葵(上小)
- 柳澤 真純(上小)
- 吉江 美佳(松本)
- 内山 寿美(諏訪)
- 川村 綾美(諏訪)
- 原 深雪(諏訪)
- 高坂 彩水(諏訪)
- 水上小百合(上伊那)
- 三石奈央美(上伊那)
- 馬場 絢音(上伊那)
- 中原 純子(上伊那)
- 井原 寿恵(飯伊)
- 齋藤 静(飯伊)

第35回全国高等学校弓道選抜大会

○平成28年12月23日(金) ～25日(日)
愛知県名古屋日本ガイシホール

■個人の部

- ▲男子
- 6位 小口 琉矢(岡谷工業)

中野冬季百射会

○平成29年2月12日(日)

中野市弓道場

参加人数…一般44名

■個人の部(100射)

▲一般

- 1位 小池 君男(善光寺)
 - 2位 生田 憲克(長野支部)
 - 3位 亀岡 英司(南佐久支部)
 - 4位 青木俊太郎(須坂市)
 - 4位 岩原 祐貴(諏訪支部)
- 72中
69中
68中
66中
66中

指導部からのお知らせ

長野県弓道連盟ホームページに
指導部テキスト「日々の練習
その1」を掲載いたしました。
ご確認いただき、日々の稽古に
お役立て下さい。

昇段昇格者

■「東京」特別臨時中央審査

▽錬士の部平成28年12月17日

亀谷 静江(飯伊支部)

夏目 澄江(中高支部)

▽教士の部平成28年12月18日

征矢 憲(上伊那支部)

■「名古屋」定期中央審査

▽六段の部平成29年2月5日

深澤 健二(松本支部)

伊藤 公二(塩尻支部)

▽教士の部平成29年2月4日

下平 春夫(飯伊支部)

訃報のお知らせ(敬称略)

長野県弓道連盟 飯伊支部
初段 遠山 良久(82歳)
平成28年12月29日(木)

ご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、
お知らせ申し上げます。

ひびき

さてさて今回は、部長と行ってお
ります編集作業について少しお話し
致しますと…

頂きました原稿を実際の紙面に近
いものにして、ゲラの段階で一回執
筆者にお返しし、これで宜しいです
かとお伺いしています。その時に印
刷会社の校正担当者のお力もお借り
して朱筆を入れてお返し致します。

私達が行いますのは「校正」で「校
閲」は致しません。昨年TVドラマで
「地味にスゴイ!校閲ガール」という
のが放映されていましたが、確かに
校正は地味な作業です。基本的に校
閲はしておりませんので、事実確認
にも参りません。(残念ながら…)

以前この紙面でも書きましたが、
頂きました原稿の臨場感をそのまま
お伝えしたいと考えておりますので、
なるべく朱筆を入れないように心掛
けております。たまに致し方なく
朱筆を入れますが、それはより良く
なれば…と願うのでして…

今後いろいろな記事の臨場感をそ
のままお伝えするべく努力して参り
ます。失礼がありましたら、熱意の
表れと受け取って頂き、どうかお許
し下さいませ。

松本支部 中田 美千